

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1091100279		
法人名	フロンティアの介護		
事業所名	あんなかの憩		
所在地	群馬県安中市松井田町五料2098－1		
自己評価作成日	令和7年11月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.frontier-gp.jp/nursing-home-search/detail/annaka_gn

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号
訪問調査日	令和7年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・自然豊で、広々とした敷地。ベランダ、施設内から四季折々の花(桜、梅、桃)などが見えます。
- ・買い物は週1回希望者と同伴している。
- ・ベテラン主婦が多く在籍しており、少しアレンジを加えて調理をして頂ける為、とてもおいしいです。
- ・フロアは天井も高く、広々としたフロアで快適な環境。
- ・入居者に季節感を味わって頂く為に、夏祭り、クリスマス会、その他外出レクでは、季節の紅葉の見学や初詣を企画しています。
- ・FT(社内資格)では、運動器具を使用した、定期的に機能訓練を行っています。

令和6年4月に全国に100以上の事業を展開している法人が既存の事業所をM&Aにより経営を引き継ぎ、外観や室内に新たに手を加えオープンしたグループホームである。家族には説明会を開き、料金等の変更は行わず動揺がないように努めた。先代の時から訪問調査に伺っていたが、室内は利用者が動きやすく清潔で安全な造りになり、自室と共用空間を行ったり来たり思うままに行動している。また、共用空間から続くテラスに出ると、竹林や実の成る木や季節ごとに咲く樹木等の変わらない景色を見ることができた。利用者は運営者変更後も慣れてきた様子で、訪問調査時(利用者6名)にダメージは見当たらず、各人のできることのお手伝いやお財布を持って買い物に行くという社会との関わりが持てるようになり、安心して生活している様子が伺えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼のタイミングで、職員で唱和(会社理念、我々の接遇5原則ルール)を行っています。	法人の理念を掲げ、主原則を基本に職員が同じ方向で利用者を支援できるよう指導書もあり、理念の共有に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	空き家が目立ち、高齢化が進んでいる地域ではあるが、お会いした挨拶を行い、近所のスーパーや郵便局に行ったりしています。	近所は高齢化で訪問調査の都度年々空き家が増えていることを確認している。事業所の周囲は坂道のため買い物に出かけることを目的に車で移動したりと外部との交流に努力をしている。今後はボランティアの受け入れも検討している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談があれば随時対応しています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や区長、民生委員、市担当者が出席し、入居状況報告、行事報告等を行い、意見交換を行っています。	R7年7月から定期的に開催。家族会(1名)・区長・民生委員・行政職員・法人課長等が出席し、状況・行事報告・事故ヒヤリハット報告等を行い意見交換がされている。家族から日常生活を知りたいと意見が出ている。	出席していない家族等に案内や議事録を発送し、会議内容を知らせてほしい。出席できる家族がいれば参加を促してほしい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	10月から管理者が変更になり、現在は殆んど連絡をとりあえていないが、今後は些細な事でも連絡を取り合えるようになっていきたいと思います。	地域ケア会議開催の情報は得ている。事故報告等は支所とメールで報告・やり取りをしている。介護保険の認定調査の立合いや更新代行は希望により行う予定である。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束となる行為は行わない方針を職員全体で共有しています。	玄関は昼間は開錠している。身体拘束は行っていない。スピーチロックに関しても注意を払い職員同士共有している。研修を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的、心理的虐待、経済的虐待、ネグレクト等の具体例を学び、早期発見・相談ができるようにしています。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネージャーや家族と相談し必要に応じて成年後見制度等の利用を進めるなど、本人の権利が守られるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には、重要事項説明書と契約書を用いて、料金・サービス内容など丁寧に説明を行う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、ご利用者様要望の設置を行い、今後ご利用者様にヒヤリングを行う予定。	家族からは面会時や電話等に健康で、転ばないでほしい、機能訓練をしてほしい等の希望が出ている。本人からは出かけたい、食べたい物の希望が多く出ているので、外出に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例の職員会議や個人面談を実施し、運営に関する職員の意見・提案を出しやすい雰囲気づくりに努めています。	職員会議時に意見の出やすい環境作りに努めている。職員へはケアの提案やストレスチェック等でメンタル面への配慮もしている。日常のケア記録もタブレット入力に移行している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの勤務状況や健康面を把握し、希望休の調整や残業の抑制に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実績と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当事業所は、OJTを中心とした新人教育のほか、法人内研修や外部研修への参加機会を確保しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外の研修会や会議等への参加を通して、管理者・職員が他事業所と情報交換する機会が確保されています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様、家族様が安心して相談できる雰囲気づくりを意識し、日頃から声掛けや情報共有を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の本音を引き出す質問の仕方や、わかりやすい説明の工夫が課題である。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の立場に立った言葉選びと、情報共有のタイミングを工夫していきたい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と一緒に雑談やテレビを見たり、家事を行ったりする時間を意識し設けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など本人の様子をこまめに伝えるよう意識している。今後はより家族ごとの事情や思いを聞き取り、気持ちに寄り添えるようにしたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	人員配置の関係で、地域行事や馴染みの場所への外出が現在、なかなか難しい状況の為、工夫の必要がある。	家族の面会や携帯電話を持参している人もおり、電話をしている。季節の作品づくりやできる人には家事を手伝ってもらっている。利用者同士和気あいあいとした会話や職員との会話が聞こえてきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性や過去の関係性を職員間で共有し、トラブルを未然に防ぐよう心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りや退所時には、これまでの関係性を振り返る時間を設けるようしたいと思っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何をしたいか、どう過ごしたいかを折に触れて尋ねる事を意識している。思いの把握が難しい方には、家族と情報共有しながら、負担にならない形で選択肢を提示できるよう努めます。	ケアマネージャーが週1回訪問しており、利用者との会話を通して意向等確認している。家族からは、面会時や電話等で希望を確認し、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時面談で、生活歴や大切にしてきたことを詳しく伺い、職員と共有できるように行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや個別記録を通じて、睡眠、食事、排泄、活動など一日の流れを把握するように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いを確認し、ケアマネージャーや現場スタッフと意見交換を行いながら内容を決めています。	モニタリングは毎月実施。生活機能訓練は3ヵ月毎に見直しを実施。介護計画については、担当者会議と共に6ヵ月毎に見直しを行っている。また、状態変化時は随時見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとに気になった点を意識して記録している。気づきや工夫を口頭で伝える事が多く記録に残すのが少ない為、良かった点なども記録に残す様に再周知します。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	まだ十分に把握できていない地域資源もある為、資源マップの作製や情報共有を進め、適切な支援先を提案できる様に努めたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだ把握しきれていない地域資源も多い為、パンフレット収集や資源マップ作成を進め、情報共有できるようにしていきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事前に気になる症状をまとめて医師に伝えるように心掛けている。また受診後は記録や申し送りで情報共有しています。	契約時に説明し、これまでのかかりつけ医が事業所の協力医への変更を選択してもらっている。現在は全員が協力医の往診を月2回受けている。他科への受診は職員が同行するときもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルや表情の変化、食事量などきになった点は、その都度看護師へ相談するよう意識しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、できるだけ付き添い、病棟スタッフへ普段の様子を伝えるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早めに家族と話し合いの場を設け、本人の望む過ごし方を確認するように意識しています。	看取りに関する指針があり、本人と家族が希望し協力医の判断で実施。また、家族へは段階的に思いを確認することを共有している。職員へは重度化や終末期への研修を年に1回予定されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月初3日間、全体会議のタイミングで、背部叩打法やハイムリック法の動画視聴を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現状殆んど訓練できていない為、自分達の役割や利用者様の誘導方法を再確認し周知の徹底を行っています。	R7年6月に火災想定自主総合訓練を実施。7年9月には消防設備点検を業者が実施した。備蓄として食料・水・排泄用品を用意している。	職員と利用者が参加して制度上の消防署立会いの訓練と自主訓練を実施してほしい。その後自主訓練回数を増やして不測の事態に備えてほしい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に名前を呼んで声をかけ、一言断ってから介助を行うことを意識しています。	苗字に「〇〇さん」と呼んでいる。やりたいことややってほしいことはその時の本人の気分に合わせて声を掛けるようにしている。利用者同士の相性にも配慮している。	異性介助時には声掛けによる同意を得たり、居室のポータブルトイレに布を覆う等、プライバシー保護に繋がってはいかがか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択してもらう場面を増やし、できるだけ本人に決めてもらうよう意識している。意思表示が難しい方については、表情や行動からサインをより読み取れるように努める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	洗濯物や食器拭きなど、これまで担ってきた役割を日々の生活の中で続けてもらえるよう意識している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みや季節感を踏まえて衣類選び、起床時や昼寝後の髪の乱れは直す様に心掛けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を一緒に作ったり、配膳や下膳を行っています。	楽しみな食事の提供を心掛け、業者からの献立は決まっているが、手作りで提供している。下ごしらえ・配膳・下膳・食器拭き等を手伝ってもらい、飲み物も数種類の用意があり、誕生日には手作りケーキで祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は好みの飲み物やタイミングを工夫しながら、こまめに進めるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを習慣化できるよう声掛けを行っている。自立の方の口腔状態の把握頻度が少ない為、増やしていきたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行きたくなったら、いつでも声をかけてくださいと伝え、我慢や失敗に繋がらないよう一部介助に入れる様に心掛けています。	トイレでの排泄を支援している。排泄チェック表を参考に、車いすの方等、本人の状況により昼夜同じ方法で支援している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から水分摂取の声掛けを行っているが、人員の関係で散歩や外出の機会が減っている為、工夫していきたいです。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現状曜日は決まっているが、個々のタイミングで時間調整を行う様に心掛けています。	入浴できる曜日が決められており、週に2回午前中に予定者に声をかけ入浴している。職員と1対1でゆっくり支援することに努めている。	入浴日を決めずに前日に入った人にも今日も入れるとの声をかけ、希望が出れば支援して、選択の機会にしてはいかがか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前の環境調整や声掛けを行い、生活リズムを大きく崩さない様に情報共有を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更などがあつた際は、タブレットに記入を行い、薬情のファイルを全スタッフが見れるように置いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理や洗濯干しなど、お願いできますか？と声をかけながら、無理なくできる役割を提案する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週一回天気や安全面を確認しつつ、季節の変化と一緒に感じながら、近所に買い物に出かけています。	敷地内での散歩やお財布を持って買い物に出かけている。季節の花見や利用者が在宅時に訪れていた場所に出かけたいという計画も出ている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	品物を選んで支払う場面を作ることで、本人の楽しみや自立感につながるように意識しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、電話してみますか？などの声掛けや聞き取りが出来ていなかった為、今後は定期的に聞き取りを行っていきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	通路に物を置かない、証明の明るさを調整するなど、安全で見通しよい空間作りを意識しています。	共用空間は明るく窓からはテラス越しに四季の様子を感じることができる。不快な臭いはない。台所から料理の香りが伝わってきて食欲をそそっている。生活の様子の写真や季節の作品が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性の良い方同士が近くに座れる様に、スタッフと情報共有を行いながら、席の考えています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が大切にしてきた家具や物が少ない気がする為、家族に聞き取りを行っていきたい。	ベッド、エアコン、タンスが備えられている。テレビや布団、カラーボックス、衣類、身の回り品が持ち込まれており、心地よく過ごせるよう工夫されている。不快な臭いはしない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	良く使う物は手の届く範囲に置く様にし、本人が使いたい時に使える様に、物の場所を考え配置するように心掛けている。		